

高等学校における地域開放行事の実践報告Ⅱ[†]

—コンサートの実際と今後の課題—

高島 章悟*・米田 雅人**

宇都宮大学教育学部*

石川県立金沢向陽高等学校**

前回の実践報告Ⅰに引き続き、本報告ではコンサートが実際にどのようなものであったか、楽譜と朗読の内容を取り入れて述べる。

キーワード：楽譜、朗読、詩集、チューバ

1. 編曲について

『動物の謝肉祭』全14曲原曲の編成は以下の通りである。

第1曲「序奏とライオンの王の行進」：ピアノ2、ヴァイオリン2、ヴィオラ、チェロ、コントラバス

第2曲「めんどりとおんどり」：クラリネット、ピアノ2、ヴァイオリン2、ヴィオラ

第3曲「ろば」：ピアノ2

第4曲「かめ」：ピアノ、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス

第5曲「ぞう」：コントラバス、ピアノ

第6曲「カンガルー」：ピアノ2

第7曲「水族館」：フルート、グラスハーモニカ、ピアノ2、ヴァイオリン2、ヴィオラ、チェロ

第8曲「耳の長い登場人物」：ヴァイオリン2

第9曲「森の奥に住むカッコウ」：クラリネット、ピアノ2

第10曲「大きな鳥籠」：フルート、ピアノ2、ヴァイオリン2、ヴィオラ、チェロ、コントラバス

第11曲「ピアニスト」：ピアノ2、ヴァイオリン2、ヴィオラ、チェロ、コントラバス

第12曲「化石」：ピアノ2、クラリネット、シロフォン、ヴァイオリン2、ヴィオラ、チェロ、コントラバス

第13曲「白鳥」：チェロ、ピアノ2

第14曲「終曲」：ピッコロ、クラリネット、グラスハーモニカ、シロフォン、ピアノ2、ヴァイオリン2、ヴィオラ、チェロ、コントラバス

第3曲、第6曲はピアノのみの楽曲であるため、原曲通り演奏した。

第2曲はピアノ、クラリネット、ヴァイオリン2、ヴィオラで鶏の鳴き声を表現している。ヴィオラのパートをチューバで試奏したが、音域の違うチューバでは原曲の持つ曲想には程遠いと判断し、ピアノ連弾によって演奏した。その結果、曲のイメージに合った表現が可能となった。

また第5曲、第8曲、第9曲、第13曲は、それぞれ、コントラバス、ヴァイオリン、クラリネット、チェロによって演奏されている部分をそのままチューバの音域に移調して演奏したため、これらの楽譜の掲載は割愛する。

第1曲（譜例1）、第4曲（譜例2）、第8曲（譜例3）、第11曲（譜例4）ではピアノと弦楽器で演奏されていることから、チューバ独奏に編曲し、演奏した。

譜例1：第1曲「序奏とライオンの王の行進」



[†] Shogo TAKASHIMA*, Masato YONEDA**:
Practice report of regional open events in
High School II : The fact of the concert and
future subject

Keywords :Score, Reading Aloud, Collection of
poems, Tuba

* School of Education, Utsunomiya University

** Koyo High School, Kanazawa, Ishikawa

(連絡先 : takashima@cc.utsunomiya-u.ac.jp)

譜例2：第4曲「かめ」



譜例3：第8曲「耳の長い登場人物」

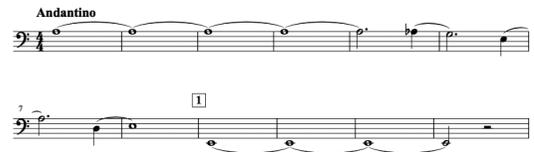


譜例4：第11曲「ピアニスト」



第7曲（譜例5）、第10曲（譜例6）は、フルート、ハーモニカ（「水族館」のみ）、2台のピアノ、弦楽器で編成されている。チューバでフルートのメロディラインの演奏を試みたが、音域が高く、ピアノとのバランスを考慮すると効果的ではないと判断した。そこでチェロの伴奏ラインを演奏することとした。その結果、コードの流れが鮮明となり、バランスの良い演奏となった。

譜例5：第7曲「水族館」



譜例6：第10曲「大きな鳥籠」



第12曲は、冒頭からと33小節目の2拍目から、及び64小節目の2拍目からのシロフォン（譜例7）、17小節目の2拍目からのヴァイオリン（譜例8）、30小節目から33小節目の1拍目（譜例9）、49小節目の2拍目からのクラリネット（譜例10）をチューバの演奏に編曲した。これらの楽器は、基本的に音域が近い。また、倍音が少なく、音の輪郭が鮮明であるためである。

譜例7：第12曲「化石」64小節目の2拍目から



譜例8：第12曲「化石」17小節目の2拍目から



譜例9：第12曲「化石」30小節目から33小節目の1拍目



譜例10：第12曲「化石」49小節目の2拍目から



第14曲では、前述のように弦楽器とフルートのバランスを考慮する観点から、5小節目からの弦楽器（譜例11）、11小節目と52小節目からの同じ動きをしているピッコロ、フルート（譜例12）、27小節目からのチェロ、コントラバス（譜例13）、70小節目からのチェロ、コントラバス（譜例14）、80小節目からのチェロ、コントラバス（譜例15）、をチューバで演奏することにより同様のバランスを得ることができた。

譜例11：第14曲「終曲」5小節目から



譜例12：第14曲「終曲」11小節目から



譜例13：第14曲「終曲」27小節目から



譜例14：第14曲「終曲」70小節目から



譜例15：第14曲「終曲」80小節目から



全曲終了後、アンコールとして第13曲の「白鳥」、を演奏し、コンサートを締めくくった。

2. 朗読の内容について

当初、絵本の内容に沿って朗読する予定であったが、一部を除き詩集、歌詞等の抜粋によるアレンジが図書委員会のみなさんにより行われ、独創的な朗読によるコンサートとなった。ここでは実際に読まれた部分を書き記す。朗読は図書委員の高校生4名が行った。

第1曲「序奏とライオンの王の行進」

空を切り裂いて落下する滝のように
僕はよどみない生命（いのち）を生きたい
キリマンジャロの白雪 それを支える紺碧の空
僕は風に向かって立つライオンでありたい
（さだまさし 風に立ちライオン 抜粋）

第2曲「めんどりとおんどり」

めんどりさんとおんどりさんは2羽で暮らしていました。

めんどりさんはおんどりさんに
「めんどりさんは、明るくて思いやりが一杯あるね」と言いました。

めんどりさんは卵をひとつ生みました。

おんどりさんは卵を抱いているめんどりさんのお世話をかいがいしくしながらヒナが生まれてくるのを楽しみに待ちました。

しばらくして、かわいいヒナが生まれました。

3羽は明るく思いやり深く仲良く暮らしました。

（ドーナツ mama 一部抜粋）

第3曲「ろば」

柵（ひいらぎ）の生垣に沿って歩いてゆく
優しい驃馬が僕は好きだ。

驃馬はいつも思案顔。

目はピロンド製。

優しい心の乙女よ、
君にだって驃馬ほどのやさしさはないのだ、

なぜって、青空を心に持った優しい驃馬は、
いつも神様のみ前にいるから。

（フランシス・ジャム 僕は驃馬が好きだ 抜粋）

第4曲「かめ」

「もしもし かめよ かめさんよ
せかいのうちに おまえほど
あゆみの のろい ものはない
どうして そんなに のろいのか」

「なんと おっしゃる うさぎさん
そんなら おまえと かけくらべ
むこうの 小山（こやま）の ふもとまで
どちらが さきに かけつかか」

「どんなに かめが いそいでも
どうせ ばんまで かかるだろう
こころで ちょっと ひとねむり」
グーグーグーグー グーグーグー

「これは ねすぎた しくじった」
ピョンピョンピョンピョン ピョンピョンピョン
「あんまり おそい うさぎさん
さっきの じまは どうしたの」

（石原和二郎 うさぎとかめ）

第5曲「ぞう」

うんとこしょ どっこいしょ
ぞうが ありんこ もちあげる
うんとこしょ どっこいしょ
みずが あめんぼ もちあげる
うんとこしょ どっこいしょ
くうきが ふうせん もちあげる
うんとこしょ どっこいしょ
たが こころを もちあげる

（谷川俊太郎 うんとこしょ）

第6曲「カンガルー」

カンガルーの坊やが 坊やがね
かあさんのかあさんのポッケの中で
コスモスみてた 秋の空みてた
それからぼっち ひるねした

カンガルーの坊やが 坊やがね
かあさんのかあさんのポッケの中で
柿の実みてた お月さんをみてた

それからほんとに ねんねした
(サトウハチロー カンガルーの坊や)

第7曲「水族館」

この古びて忘れられた海辺の水族館は
小さな間仕切りの四角い窓が並んでいて
海藻がゆらゆらと漂い
細いパイプが水泡をシャボン玉状に噴く
客足も少ない平日の ただ一人の観客の私
まして 夕暮れのこの時間
光りの射さない暗い館内の一隅に坐って
ぼんやりと魚たちを眺めていると
まるで私自身が、深い海底に沈んでいる
廃棄物の一種になった気がする
(久宗睦子 水族館で 抜粋)

第8曲「耳の長い登場人物」

なにやらノートにはしりがき
やがてえんそうがはじまると
その特大のみみをゆらゆらさせて
くちぐちにわめきだす
いいいっほー！ いいいっほー！
いいいいいっほー！ いいいいいいいいいいいっ
ほー！
(ジェラルド・ベンソン 一部抜粋)

第9曲「森の奥に住むカッコウ」

しぐれた林の奥で
かっこうがなく。

僕の短い生涯の
ながい時間をふりかへる。
うとうとしかった愛情と
うらぎりの多かった時を。

いまはもう、さがしようもない。
はてからはてへ
みつみつとこめる霧
とりかへせない淋しさだけが
非常なはやさで流されてゐる。
(金子光晴 かっこう)

第10曲「大きな鳥籠」

目もあでやかな鳥のむれが

まるで憧れのように 青空へ昇っていく
上にあがって輪を描いて、いきなり
急降下、水平飛行、そして旋回
そうしてまたゆっくりと舞い上がる
(ヴァレリー・ブルーム 一部抜粋)

第11曲「ピアニスト」

夕方になれば水差しを持ってピアノに水をやりに来る男がいる
ピアノに花が咲くと信じる男の習性だ
ピアノに花が咲くと信じる
これははくの悲運でもよく あなたの不滅でなくともよい
ピアノになった木がずっと以前 花が咲いたところを
思う夜

ピアノは木と別れた ここは因縁に魅惑されたこの星の習性だ
(金経株作 佐川亜紀訳 ピアノになった木)

第12曲「化石」

風は生きている化石だ 生きているあらゆるものが消えてなくなった後も自ら生き残り さまよう人々は
自分の世界の中で泣く しかし生きているあらゆるものは
風の世界の中で泣きながら行く
(金経株作 佐川亜紀訳 風の年代記は誰かがすべて記録する 抜粋)

第13曲「白鳥」

しらとりは かなしからずや そらのあお うみのあをにも そまわずただよ

果てしなく広がる青い海と、その上に無限に広がる青い空。ひとつづきのように感じられる二種の青は、しかし互いに侵すことのない独自の色みを帯びて、水平線という一本の弧によってかぎられている。
(若山牧水 一部抜粋)

第14曲「終曲」

さーみんな集まって
泳ぐもの、空を飛ぶもの、地を這うもの、

時のかなたに 滅びたものも
花飾りの馬車に乗って
カーニバルのパレードをもう一度！
(ジェラルド・ベンソン 一部抜粋)

3. アンケートと今後の課題

コンサート終了後、観客の協力を得てアンケートを実施した。コンサートについての感想は、以下の通りである。

・チューバは土台で似たような音を出し続ける楽器、役割だと思っていたけれど、今日の演奏を聴いて、チューバはいろんな音が出せてスピードも速いものまでできるということを初めて知りました。チューバは高い音も出るんですね！！感動しました。

・ゆっくりな演奏、リズムカルな演奏、なめらかな手つきでピアノをあやつるお二人に感動しました。チューバの音は初めて聴きました。意外と低音で驚きました。

・チューバの音と、ピアノの音がよく合っていてよいと思いました。第14曲の「終曲」では指回りが速かったのですごいと思いました。最後の「白鳥」でのチューバの音がきれいでした。

・大変素晴らしい演奏をありがとうございました。私の息子は中学校の吹奏楽部でチューバを吹いています(中1、中3の二人)。今日の演奏を楽しみにしていましたが、部活の都合で参加できず本当に残念です。縁の下の力持ちぐらいにしか思っておりませんでした。すごく力のある美しい響きを持っていると感じ、息子二人が「俺はチューバがいいんだ！！」と言っていた意味がわかりました。親として二人が大好きなチューバを頑張っていけるよう、応援していきたいと思います。

・プロのチューバ奏者の息づかいやピアニストの指づかいに間近で接することができ、とても感動的だった。詩の内容ともうまく一致していて、イメージが広がった。朗読もよく、高校生とプロの演奏家との「協演」はとてもよい企画でした。

今回は『動物の謝肉祭』を題材とした、朗読、チュー

バ独奏とピアノ連弾、華道部と美術部による作品を鑑賞するという形態のコンサートであった。一つの空間でそれぞれが連携しながらも主張し合うことで、さらに奥行きと広がりを見せることができたのではないか。また、アンケートの内容から観客のチューバとピアノへの関心が高まったこと、子どもたちの音楽活動に対する理解が深まったことなどを窺い知ることができ、これらは、今回の企画による大きな成果であると考えられる。今後も、様々な分野との連携を模索し、その連携・協演の新しい形、可能性を追究しながら企画を行いたい。そして、観客の音楽に対する理解がより深まるよう努め、継続していくべきである。

参考・引用文献

- 1) 高島章悟『高等学校における地域開放心事の実践報告I-行事の背景と開催に到るまで-』、宇都宮大学教育学部教育実践紀要 第2号, 2016年, p.226
- 2) エイドリアン・ミッチェル他『動物たちの謝肉祭』、きたむらさとし絵, 四元康祐訳, BL出版, 2007年p.18,p.22,p.31
- 3) <http://www.kasi-time.com/item-15518.html> 2015年10月閲覧
- 4) <http://plaza.rakuten.co.jp/doughnutmama/diary/201112130000/> 2015年10月閲覧
- 5) フランシス・ジャム『ジャム詩集』、堀口大學訳, 新潮社, 1951年, pp.18-19
- 6) 『第73回企画展 童謡のふるさと 石原和三郎の世界-「うさぎとかめ」発表から11年-』、群馬県立土屋文明記念文学館, 2011年p.28
- 7) 萩原昌好編『日本語を味わう名詩入門11-サトウハチロー-』、あすなる書房, 2012年p.40
- 8) 久宗睦子『新・日本現代詩文庫99-久宗睦子詩集-』、土曜美術社出版販売, 2012年, p.83
- 9) 清岡卓行編『金子光晴詩集』、岩波書店, 1991年, pp.448-450
- 10) <http://www2u.biglobe.ne.jp/~sagawa/kankoku9.htm#%8B%E0%8C%8A%94> 2015年10月閲覧
- 11) 伊藤一彦編『若山牧水歌集』、岩波書店, 2004年p.9
- 12) サン＝サーンス『動物の謝肉祭』、全音楽譜出版社, 1968年

平成29年3月24日 受理